

十和田市事務事業評価 外部評価（事前評価）集計表

事務事業名	農畜産物等総合販売推進事業	担当課	農業政策課
--------------	---------------	------------	-------

1. 事前評価の結果集計

検証項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業収入の増加は、他の業種にも経済的な効果を与えるので、本事業は、より推進すべきと考える。 ・ この地域の方々は、ものを作ることにかけては大変優秀だが、そのものを販売することについては下手であることを考えると、この事業は良いと思う。 ・ 広範なイベント、行事が行われているが、検証を行い、重点化を図る必要がある。 ・ 農業所得の増加が目的のため、農業者達が、この事業を妥当と捉えているかが評価基準として重要ではないか。 ・ 青果販売業者との連携がどのようになっているかについても、妥当性の判断材料になるのではないか。 ・ 農家の多くは JA との関係が深いので、JA との協力関係についても資料に盛り込むべきではないか。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有効性については、改善すべき点があれば示して欲しい。 ・ 活動指標から見る有効性と④成果指標から見る有効性があまり順調ではないとのことだが、⑤事務事業の見直しの余地については「C 見直すべき」とすべきではないか ・ 活動指標・成果指標から見る自己評価が低いので、販売戦略を工夫すべきではないか。 ・ 助成金を出した結果及びイベントを行った結果、事業がどう伸びたかについても触れてほしい。 ・ この部署の活動が、市全体の農業所得に繋がるのか、分かりやすく説明すべきではないか。 ・ 農業収入が、10 億円伸びたことを事業の成果と結び付けているが、その論理性に無理はないか。別の指標を考えてはどうか。 ・ 市外での販売促進活動に関しては、相模原市などとの関係を生かした方法も検討願いたい。 ・ 生産者は、物を作るだけでなく、表に出て販売するように努力をし、直接消費者の声を聞くようにすることで、オンリーワンになる力は充分あると思う。人任せでは販路拡大に繋がらない。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他課の事業と重複するところがあれば、仕分けするのではなく、協力して相乗効果を期待することはできないか。 ・ 生産と販売が結びつけば、これほど効率の良い経営はないと思う。 ・ 他事業・他機関と綿密な連携を図り、幅広い活動を推進し、効率を高める必要がある。 ・ 商工労政課や観光推進課の事業と重複していることを自認していることから、24 年度のチーム作りには、それを解消した組織で挑んでほしい。 ・ 各事業費が見えないため、効率性の評価は難しい。 ・ 事業毎の費用対効果についての分析資料を市民へ分かりやすく説明したほうが理解が深まり、協力の輪が広がる。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題ないように思う。 ・ 行政の事業への取り組みは、公平だと思う。 ・ イベントに参加している事業者が特定されているように見える。事業者にはメリットがあつての事だろうが、苦勞も多いと思うので労ってほしい。 ・ 団体への補助金額が明らかにならないと公平かどうか評価できない。明らかにしてはどうか。
事業の方向性	<p>さらに重点化を図る：2名 有効性を改善して継続：1名 有効性及び効率性を改善して継続：1名 有効性、効率性及び公平性を改善して継続、事務事業の統廃合を図る：1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市にとっては、農業収入の増加のほかにも観光収入の増加などに繋がると思われるため、コスト削減という意味ではなく、他課とも協力して効率性の向上を期待したい。 ・ 十和田市は、農業の街。農家が豊かであると街も活性化すると思う。安全安心な食材で県内外へ向けた販売をして頂きたいと思う。 ・ 生産者が多くのイベントに参加し、良い物を自分の手で販売出来るようにしてはどうか。 ・ 今のやり方では、市民への浸透具合が弱く、農業者も参加していない。部や課を超えて、民間事業者や JA と連携して、強い組織でステップアップしてほしい。 ・ 本市における農畜産物を効率よく有利に販売するには、特化を図るべきである。 ・ 農業重視の市長方針を実践する重要な取組みであり、担当者達もよく頑張っている。だからこそ、各種問題点を克服して、もっと充実させるべきである。

2. 各委員の質問・提言等（活動指標、成果指標の設定の仕方について等）

- ・23年度のコストは、5,764万円。まず、この大きな数字から事業の全体を説明することが大事ではないか。
- ・様々な事業・イベント・助成の費用対効果が分かるような資料で説明して欲しい。
- ・農業収入がこの2年間増加しているようだが、他の要因等も含めて考えられる増加要因を示して欲しい。
- ・農畜産物の総販売額が税務申告の収入金額となっているが、実際より過少となっていないか。
- ・イベントに参加しているのは加工業者が多いようであるが、加工業者の所得の伸びが重要な指標になるのではないか。
- ・資料3のイベント等に記載されていない参加者数とアンケート調査の結果を知らせしてほしい。
- ・イベントで実施した消費者アンケートは、どのように分析・活用されているのか。
- ・他課と類似の作業があるとの記述があるが、その説明資料を示して欲しい。
- ・他事業、商店街事業の現代美術館来館者を商店街へ回遊させる事を目的に、美術品を展示して実施している時期にタイアップして、農畜産物のPRを行い「とわだ産品総合販売」を進めてはどうか。その際は、重いもの、大きい製品は、その場で宅配出来るシステムにする。
- ・野菜ソムリエの活躍をまちなかで見かけない。活動のための市のサポートはどうか？
- ・この事業が無かったときと今とで、農業者の受け止め方は違うのか。今後この事業が無いとしたら、何がどう変わるのか。
- ・職員は日曜出勤も多いと思うが、適切に処遇されているのか。

十和田市事務事業評価 外部評価（事前評価）集計表

事務事業名	商店街機能強化事業	担当課	商工労政課
--------------	-----------	------------	-------

1. 事前評価の結果集計

検証項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・問題ないと考える。 ・情報誌の発行は、写真も多く使われ、更に多くの情報を満載しているので良い冊子だと思う。イベントについても参加型のイベントが多く、集客力はあると思う。 ・この事業は、賑わい創出のためには妥当と思われるが、出来るだけ多くの機会を捉えてPRし、参加しやすい体制づくりが必要である。 ・実施主体としては、補助金を出すだけの仕事に見えるが、仕事の内容を明らかにした方が、理解に繋がると思う。 ・市民がこの事業をニーズしているか疑問。役割がずれていないかを検証してはどうか。 ・タウン誌やイベントのノウハウは、行政よりも民間の方が秀でているのではないだろうか。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントありきとなっているので、それぞれの個店の販売力にもう少し工夫を凝らしてはどうか。集客と販売が上手くかみ合うと、お客様も個店も効率の良いイベントになると思う。 ・情報誌の発行、イベントの開催は、それなりに効果があると思われるが、事業費に比例して疑問が残る。 ・タウン誌を発行すれば有効とも解釈できるが、活用され、賑わいに繋がってナンボだろう。指標を変えるべきではないか。 ・イベントは、「来場者数」が指標で良いのだろうか。店主の満足度、来場者の満足度が肝要ではないか。 ・タウン誌とイベントで、商店街活性化に有効だったのか、検証している資料も公開すべきではないか。 ・各種イベントには、北里大学の学生も参加を依頼されており、若者が商店街に来ているが、一般の学生が普通の参加者として参加するような方策を考えて欲しい。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・支出経費の額から考えて、コストの切り詰め効果は少ないと考える。 ・商店街ごとのイベントで、それぞれが工夫を凝らし実施しているが、個店との結びつき（販売）をしていかないと、折角イベントに来ているお客様をそのまま帰しているようでは駄目だと思う。 ・情報誌は、多額の経費が掛かったと思われるが、どんな形で利用されているか、追跡調査をしてはどうか。 ・正職員でなければできない理由があるだろうから、それを明記してはどうか。 ・それぞれの事業にいくら経費を掛けているかが分からないと、無駄があるかどうか判断できないので、明らかにしてはどうか。 ・タウン誌やガイドブックの類は、市内にいくつもある。効率を判断するために、その状況が分かる資料を用意してはどうか。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・問題ないと考える。 ・行政の支援は、公平に行われていると思う。 ・商店街振興会と商店街連合会が対象だから偏っていないとの見解だが、この2者に絞ること自体偏っているという見方は無いのか。 ・ほかにも沢山の商店街があるが、この2者への集中について、他の商店街や市民の意見も聞いてみてはどうか。 ・ここで受益者負担という場合、「該当商店街」のことなのか、「消費者」のことなのか、表現が曖昧ではないか。
事業の方向性	<p>有効性を改善して継続：2名 効率性を改善して継続：1名 有効性及び効率性を改善して継続：1名 事務事業の統廃合を図る、または、廃止：1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の一部は成功しているように見えるが、イベントの実施時期を観光客がもっと集まる時期にするなどの工夫も必要かと考える。 ・商店街連合会、振興組合が、イベント等で来街者の増加向上を工夫して実施されているが、市を上げ全体で盛り上げるようにし、回数を減らしてはどうか。 ・個店はイベント日と通常営業日と少し変わったことを考えながら参加でき体制作りをするように努力をしてほしい。 ・タウン誌もイベントも上手く使えば成果に繋がるが、成功はなかなか難しい。 ・受益者が継続を求めるならば、市民を納得させるだけの裏付けがなければならない。 ・タウン誌で言えば、類似の印刷物との比較検証を資料にすべきだし、イベントについては、活性化に貢献しているかどうかの資料が必要。

2. 各委員の質問・提言等（活動指標、成果指標の設定の仕方について等）

- ・他の類似の事業について知りたい。
- ・観光客を商店街に導く努力はしていると思うが、飲食店などとの連携はどうか。
- ・情報誌の発行時に、アンケート調査をされているか。
- ・情報誌にかかる経費を知りたい。
- ・来場者数は、何を基準に出した数か。市内、県内、県外毎もあれば知りたい。
- ・接客の方法、対応等の研修会を行っているか。
- ・来客者の増加及び利便性を図るために、案内表示及び案内（ガイド）の強化を進めるべきである。
- ・補足説明資料が2ページだけでは、費用も効果も判断できない。
- ・担当課による検証は、かなり甘いのではないか。課によるバラツキが大きいと、内部評価が信用できない。

十和田市事務事業評価 外部評価（事前評価）集計表

事務事業名	市民参加による緑化の推進	担当課	都市整備建築課
-------	--------------	-----	---------

1. 事前評価の結果集計

検証項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズが薄れているように感じる。 ・参加者の減少は、市民がそれを求めているからではないのか。なぜ増えないのか、調べてみてはどうか。 ・この事業の内容を市民へ伝え、関心を深めさせ意識を高める必要がある。 ・個人・団体の参加が多く、高齢社会を考えると、ボランティア活動にもっと力を入れながらの事業推進を図ってはどうか。そうすることにより、最終目的にある地域のボランティア活動の推進に繋がるのではないか。 ・スタート時の経緯は色々あるにしても、緑化には様々な手法が有るため、市民と相談してみてはどうか。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・有効性があまり期待できない状況と推察される。季節によっては、観光への効果も期待できることから、オープンガーデン事業とあわせて広報活動も活発化することが望まれる。 ・緑と花のまちづくりや花いっぱい運動の一環としては、大変良い事業だと思う。ただ、地域ボランティア活動との連携強化が必要ではないか。 ・年を追うごとに、やや尻すぼみの傾向にあるので、少し形を変えて実施出来ないか。 ・参加している人や参加をやめた人の意見に耳を傾けているだろうか。そこから問題点、改善点が見えてくると思う。 ・③活動指標から見る有効性と④成果指標から見る有効性があまり順調ではないとのことだが、⑤事務事業の見直しの余地については「C見直すべき」と思う。 ・活動指標も成果指標も「参加数」だけとなっているが、ほかの指標も検討すべきではないか。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質から考えて、被表彰者は重なっているのではないか。もしそうであるならば、観光への効果も考えてみたら視点は変わる。 ・オープンガーデンとわだを実施しているのであれば、表彰をする前にコンクールに参加している方々の紹介をして、市民に多く見てもらうようにしながら推進してはどうか。また、入賞者の写真を色々な場面で紹介あるいは活用するようにすれば、もっと多くの市民の目に留まるようになる。 ・稲生川周辺の景観整備などと連携して、模範花壇を設けてみてはどうか。 ・コンクールの運営は難しいものだが、職員にそのノウハウがあるのか疑問。他市にも学ばなくてはいけないだろう。 ・官庁街の美化は税金でやっているし、町内会の花壇作りもボランティアでやっている。これらとの整合性を検討してはどうか。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・問題はないと考える。 ・個人のコンクール参加については、庭を所有の方々が対象となるが、そのことでの問題は？行政がコンクールなどを開催することは、公平だと思いますが、上記のような問題がなければなお結構だと思われる。 ・参加者が固定化傾向にあるのは、運営そのものがマンネリ化しているからではないのか。市民の声を聞いてみてはどうか。 ・審査員への不信感もあると聞く。審査方法への疑問の声も聞く。謙虚に参加者の声を聞いてみてはどうか。
事業の方向性	<p>現状のまま継続：1名 有効性を改善して継続：1名 効率性を改善して継続：1名 事務事業の統廃合を図る：1名 事務事業の統廃合を図る、または 廃止：1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入賞者の紹介をする場面をつくりながら推進してはどうか。 ・花壇コンクールに対しての一般市民の関心を深めれば、事業の成果が高められるのではないか。 ・参加者増を狙い、地域にある公園の花壇をコンクール対象として、各公園周辺の町内会に参加して頂き、順位を付けてみてはどうか。（例：公園周辺2～3町内会で協力して頂く） ・コンクール審査会場を設置し、「花の寄せ植」コンクールを開催してはどうか。 ・オープンガーデン事業との統合を行い、表彰については簡素化する方向で良いのではないか。 ・市民の関心が薄く、参加者も限られ、参加をやめた人からは不満も多い。継続する合理的な理由がないのなら、やめてみるのも手。 ・オープンガーデンは継続しても良いと思う。老人施設の散歩では、和む姿がよく見られる。 ・花を大切にすることは素晴らしいが、コンクールを組み合わせることで歪んできたと思う。

2. 各委員の質問・提言等（活動指標、成果指標の設定の仕方について等）

- ・被表彰者が重なっているのであれば、教えて欲しい。
- ・花壇コンクールは、本市における緑化推進事業での位置付けはどうなっているか。
- ・コンクールは、生け垣は対象となっているか。
- ・（評価シート「担当課による検証」の）効率性⑥～⑧のコスト削減は、どのように実施されているか。
- ・今まで、参加者が少なくて、前年度参加くださった方に声をかけて、参加して頂いたことがあるか。
- ・参加者が減っていることについて、関係者の声をどのように吸い上げているか？
- ・参加者へ、アンケート調査はされているか。
- ・指標は「参加数」ではダメだと思う。市民の声、評価も入れるべきだし、審査も公開でやった方が良いと思う。
- ・表彰式終了後に、少数に残ってもらって意見交換をしているようだが、そのやり取りは資料になっているのか？